

日本社会福祉学会五十周年に向けて

総務担当理事

白澤政和

大阪市立大学大学院生活科学研究科

日本社会福祉学会は1954（昭和29）年に大阪市教育会館で第1回大会を開催して以降、来年の2004年に東洋大学で第52回大会を行うが、その際に学会創設五十周年を迎えることになります。

なお、昨年の日本社会事業大学で第50回大会を開催しましたが、これは学会創設時の昭和29年は、1年間に春と秋の2度の学会を関東と関西に分けて開催したことにより、52回大会で五十周年を迎えることになりません。

この半世紀に、本学会は数的には4千5百人の会員に迫るマンモス学会にまで発展し、同時に学会誌や学術発表を介して、社会福祉に関する研究を蓄積してきました。この間に、先輩の学会員は学会誌の創設や編纂、学会開催等で多大な努力を重ねてこられた結果、今日の隆盛を迎えることができたといえます。

この五十周年を記念して、以下の3つの「学会創設五十周年事業」について3月10日の第5回理事会で承認を得ました。

この件については、今年の四天王寺国際佛教大学で開催される第51回大会（10月11日～10月13日）総会で提案する予定ですが、会員の皆様からご承認をたまわれればと考えています。

①式典、記念シンポジウムおよび祝賀懇親会

第52回大会前日の平成16年10月9日（土）に、会員の皆様の参加を得て、五十周年式典、「社会福祉学の展望と学会の果たすべき役割」（仮題）でもっての記念シンポジウムを開催します。その後で、懇親会を予定しています。

②学会賞の創設

日本社会福祉学会も50年の間に、多大な研究を蓄積してきました。そこで、会員の研究意欲を一層高め、学会全体での研究実績を積み重ねていくために、顕著な研究業績をあげた者への顕彰として学術賞（仮称）、今後の研究の発展が期待される研究を行った者への奨励賞（仮称）の2種類の賞を創設したいと考えています。

予定では、第52回大会で第1回の表彰を行うことを目処に、計画を進めています。なお、学会賞創設にあたって、会員の皆様から浄財をお願いすることも考えておりますので、その際には多くの会員の皆様のご協力をお願いします。

③50年史の刊行

「日本社会福祉学会50年史」（仮題）については、既に委員会を設け、第52回大会までに刊行できることを目処にして作業を行っています。

こうした3つの事業を介して、日本社会福祉学会が今後一層発展していくことを願っています。



日本社会福祉学会 2002年度 第5回理事会

2003年3月10日(月) 13時より
会 場 東洋大学第2号館スカイホール
出席者 別 紙

第1号議案 第50回(2002年)大会(日本社会事業大学)の報告について

50回記念大会ということもあり、多くの参加者があり、盛会裏に終えた。

第2号議案 第51回(2003年)大会(四天王寺国際佛教大学)について

- ・5月24日を発表の締切りとする。
- ・口頭発表、ポスター発表、自主企画シンポジウム等は1人1回とする。

第3号議案 第52回(2004年)大会(東洋大学)について

- ・2004年10月9日(土)、10日(日)、11日(月)を予定
- ・学会創立50周年の記念行事を、初日午後行い、これを含め3日間の日程で大会を開催する。

第4号議案 プログラム委員会・シンポジウム委員会について

- ・シンポジストの打合せが必要で、会員外の場合の旅費を負担する予算を組む。

第5号議案 学会50周年事業について

- ・50周年事業に「ケアワーク事業」を含めることが提案された。→7月理事会において再度検討
- ・50周年事業の実行委員会を発足させる。
大橋、井岡、大友、白澤、牧里、宮田理事および古川会員(大会開催校)。

第6号議案 「日本社会福祉学会賞」創設について

- ・学会賞については、学会が独自の賞を持ち、それを受賞することは価値があることなので、学会創設50年を記念して賞を設置する
- ・しかし、「損保ジャパン」が先進的に果たしてきたことを考慮し、さらに検討を行う。

第7号議案 機関誌『社会福祉学』の査読に関する苦情窓口の設置について

窓口の委員会として、常設委員会を設置するのは難しいが、査読に限らず、異議については、機関誌編集委員会へ申し出があれば、対処する。

第8号議案 「日本学術会議会員候補予定者および推薦人選挙に関する内規」の変更について

本学会会員増に伴い、日本学術会議会員推薦人の数が前回より増えたため、内規を手直しし、今後にそなえる。

第9号議案 学会年会費徴収方法について

銀行引き落としなどの方法により、事務の効率化と照合の簡略化、会費納入の確実性を期待して、会費徴収方法を簡便化する。

第10号議案 入会申込み書・入会審査基準について(案)

- ・大学就学年限に合わせて試案を作成。
- ・業績欄を誤解して記入している。
- ・実務者の業績をどう評価するか。

第11号議案 地方部会の活性化について

- ・4000人を超える規模の学会は地方の活性化をはかっていく必要がある。
- ・全国大会と地方大会のつながりを強化し、発展させること。
- ・所属ブロックの意識をもって欲しい。

第12号議案 会員入会審査について

107名について入会承認した。

第13号議案 不明会員・退会希望者の退会および会費未納者の退会承認について

- ・長年の不明者(ホームページや学会ニュースに掲載した会員)の退会の承認。
- ・3年以上会費未納の会員の3月末での退会承認。
- ・今年度新入会員の内、入金未納者の退会承認。
- ・退会届けのあった会員の承認

報告事項① 「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」について

今後も宮田理事に出席いただく。

報告事項② 「ソーシャルワーカーの倫理綱領」改定のための合同委員会への報告について

本学会の意見として理事意見を集約し回答した。

報告事項③ 日本学術会議会員候補および推薦人選挙の結果について

会員候補者には大橋会長、推薦人には白澤、宮田古川、大友会員、予備人には阿部会員を届けた。

会 長	大 橋 謙 策	○
副 会 長	宮 田 和 明	○
特別委員会担当理事(機関誌担当理事兼任)	秋 山 智 久	○
総 務 担 当 理 事	白 澤 政 和	○
庶 務 外 担 当 理 事	大 友 信 勝	○
渉 外 担 当 理 事	黒 木 保 博	○
研 究 担 当 理 事	牧 里 毎 治	○
研 究 担 当 理 事	井 岡 勉	○
研 究 担 当 理 事	鬼 崎 信 好	○
研 究 担 当 理 事	山 崎 美 貴 子	○
機 関 誌 担 当 理 事	阿 部 實	○
機 関 誌 担 当 理 事	岩 田 正 美	○
機 関 誌 担 当 理 事	米 本 秀 仁	○
北 海 道 担 当 理 事	松 井 二 郎	欠
東 北 担 当 理 事	高 澤 武 司	○
関 東 担 当 理 事	福 山 和 女 子	○
中 部 担 当 理 事	中 田 照	○
関 西 担 当 理 事	上 野 谷 加 代 子	○
中 四 国 担 当 理 事	中 嶋 和 夫	欠
九 州 担 当 理 事	硯 川 紀 久 恵	○
監 事	右 田 紀 久 恵	○
監 事	三 浦 文 夫	○

- ▼オブザーバー 坂本徳雄(四天王寺国際佛教大学常務理事)
坂本峰徳(四天王寺国際佛教大学事務局長)
中垣昌美(四天王寺国際佛教大学)
鈴木壽恵(四天王寺国際佛教大学)
- ▼事務局 小林 萬理子



報告事項④ 「社会福祉実践と倫理」特別委員会報告
活発な会議が開催されている。盗作や二重投稿問
題だけでなく、査読、事例研究、書評、名簿使用等
の倫理規定も考えていく。

報告事項⑤ 英文誌原稿応募状況
すでに届いている原稿が7、提出希望が6。

報告事項⑥ 韓国社会福祉学会春季大会代表者派遣に
ついて
初期の予定より1週間延期された。本年度は韓国学
会の発表テーマ設定により山崎理事と大友理事に出
席いただく。

報告事項⑦ 第17回アジア太平洋社会福祉教育・専門
職会議

報告事項⑧ 『社会福祉学会50年史』(仮称)につい
て
資料集めの段階は終わり、整理の段階に入った。

報告事項⑨ 機関誌編集委員の交代について
平野隆之会員から岡本栄一会員が新たに編集委員と
なった。

報告事項⑩ 機関誌『社会福祉学』執筆要項の変更に
ついて
会員に執筆要項を送るにあたり「執筆要項」に倫理
規定を盛り込んだ。[執筆要項10を追加]

報告事項⑪ 機関誌『社会福祉学』の合本の背表紙表
示変更について

新入会員

(107名)

2002年度第5回理事会承認

青山 登志夫	静岡英和学院大学	園中 浩二	鹿児島国際大学大学院
浅野 いずみ	大妻女子大学	高瀬 寿彦	金沢福祉専門学校
東 清二郎	江戸川大学総合福祉専門学校	高橋 了子	岡山県立大学大学院
安部 雅仁	北海道医療大学	竹崎 孜	常磐大学
荒田 寛	国立精神・神経センター 精神保健研究所	武分 祥子	立命館大学大学院
淡路 和孝	グレース堺在宅介護支援センター	巽 典之	四天王寺国際仏教大学
池田 幸也	常磐大学	築地 律	三鷹市西児童館
井澤 潤	東海大学大学院	柘植 秀通	日本福祉大学大学院
石黒 寛子	県立広島女子大学大学院	綱 きみ子	日本社会事業大学大学院
石割 馨	四天王寺国際仏教大学	爪田 寿子	福岡県立大学大学院
泉 宗孝	川崎医療福祉大学大学院	富永 峰男	八尾市役所
伊藤 恵美	若手県立大学大学院	豊崎 政志	城西国際大学大学院
伊藤 新一郎	北星学園大学大学院	寅垣内 すが	京都医療福祉専門学校
歌田 朱実	県立広島女子大学大学院	中塩 夕幾	東京都立大学大学院
浦野 耕司	明治学院大学大学院	中島 聡美	常磐大学
浦野 耕司	東京福祉大学	中村 年男	済生会広島病院
生沼 礼一	四天王寺国際仏教大学大学院	長江 弘晃	佐野短期大学
逢坂 隆子	陸前高田市役所	長友 薫輝	龍谷大学大学院
大坂 養輝	岩手県立大学大学院	錦織 毅夫	吉備国際大学大学院
大富 和弘	川崎市リハビリテーション医療センター	仁平 典宏	東京大学大学院
大山 勉	東京都立大学	野崎 晃広	四国学院大学
岡部 耕典	同志社大学大学院	萩原 總一郎	四天王寺国際仏教大学
越智 祐子	武蔵大学総合研究所	林 典生	大阪府立大学大学院
小淵 高志	日本社会事業大学	林 眞帆	農協共済別府リハビリテーションセンター
加賀美 尤祥	防衛医科大学校	半田 弓理	ノートルダム清心女子大学大学院
片桐 朝美	北星学園大学大学院	朴 志允	淑徳大学大学院
加藤 正浩	吉備国際大学大学院	樋口 由起子	吉備国際大学大学院
加藤 洋子	立命館大学	久田 はづき	大妻女子大学
上村 千尋	練馬区社会福祉協議会	平林 恵美	国立精神・神経センター 精神保健研究所
河島 京美	大阪府立大学大学院	福沢 真一	常磐大学
金 春男	川崎医療福祉大学大学院	藤川 小夜子	中部学院大学中部女子短期大学
本 達男	佐野日本大学学園	保坂 良一	埼玉県庁比企福祉保健総合センター
本 熊倉	日本福祉教育専門学校	堀米 史一	東海大学大学院
倉持 香苗	広島国際大学	本多 創史	一橋大学大学院
倉持 香苗	日本社会事業大学	松久保 和俊	鹿児島国際大学大学院
小坂 哲也	専修大学大学院	水尾 現誠	四天王寺国際仏教大学
後藤 隆	佛教大学大学院	水上 妙子	仏教大学大学院
崔 春子	東北福祉大学大学院	水島 真寿美	倉敷児童相談所
斎藤 順子	ノートルダム清心女子大学大学院	道中 隆	大阪府健康福祉部社会援護課
斎藤 尚志	四国学院大学	宮下 有希	佐々総合病院
斎藤 喜恵	大分ゆふみ病院	村知 稔三	長崎大学教育学部
佐々 佳子	日本福祉大学大学院	文 光明	日本社会事業大学大学院
佐藤 博文	仙台市宮城野区社会福祉協議会	毛受 矩子	四天王寺国際仏教大学
澤田 節子	大分県立看護科学大学	守本 とも子	三重県立看護大学
穴戸 由美	富山福祉短期大学	柳本 行雄	四天王寺国際仏教大学
品川 佳満	一橋出版株式会社	山口 弘幸	長崎純心大学大学院
柴田 紀子	沖繩国際大学	山口 隆也	関西福祉科学大学大学院
柴村 登治	大分大学大学院	横田 裕美	桜ヶ丘保育園
末吉 重人	大阪府立明光ワークス	吉永 宏	常磐大学
杉野 寿子	夙川学院短期大学	吉本 佑司	鳴門教育大学大学院
杉本 正	四天王寺国際仏教大学	米津 歩	大阪府立大学大学院
洲崎 八千代	静岡英和学院大学	李 聖花	日本社会事業大学大学院
鈴木 尊志	東洋大学	若林 チヒロ	埼玉県立大学
鈴木 規子	(医) 同仁会乙金病院		
須田 木綿子			
瀬戸山 淳			



ブロック活動

各ブロックの活動をご紹介します

北海道部会

1. 第42回北海道社会福祉学会大会の共催
2. 研究例会の共催
3. 学会誌「北海道社会福祉研究第24号」の発行
4. その他

東北部会

東北部会では年一回の研究大会を開催することを中心に、東北部会の活性化の方法の一つとして、各県に幹事1名を置き、地域ごとの研究活動状況の把握や情報交換を促進していくことを行ってきました。さらに、東北各県の幹事のもとに連絡員を配置して、県域ごとでの研究活動を推進する体制をつくることを目指すとともに、研究報告誌の発行を検討しています。具体的な活動方針は以下のとおりです。

〈2003年度東北部会活動方針〉

1. 部会としての特色のある研究活動の推進
当面は、東北の地域特性に根ざした研究を発掘、促進し、将来的には『東北の福祉』のような形のあるものにしていく。
2. 学際的研究活動の推進
多様化する社会福祉の課題に応えるためには、福祉研究が学問分野や研究方法の違いを超えた学際的なものであることが求められている。さしあたり、地域福祉、社会政策学、社会学、農村(生活)学、建築・都市計画など様々な分野の学会、研究会等との合同の研究企画を、東北の内々で模索していく。
3. 実践＝「現場」との連携
社会福祉士会、介護福祉士会など、現場の専門的・職能的団体との連携のもとに、共同的な研究活動をすすめていく。
4. 研究報告誌の発行
東北部会研究大会での研究発表を報告集としてまとめ発行し、研究大会の記録を行っていく。
5. ニュースレターの発行
年2回、ニューレターを発行する。

関東部会

1. 研究論文集「社会福祉学評論」第4号を発行し、会員による研究発表の機会の拡大につとめる。
2. 「実践の科学化、研究方法論の構築を目指して」をテーマに、小規模・参画型の研究集会を年2回実施する。このテーマは、平成14年度からの3年間を視野に置いて計画実施される。

3. 年2回のニュースレターを発行し、会員への情報の周知をはかる。発行にあたっては、Eメール配信も活用する。
4. 運営委員会の運営については、各運営委員の専門性に基づいて機能的に活動できるようにつとめる。

中部部会

1. 研究大会
2003年4月19日(土)～20日(日) 春の研究大会
於 中京大学八事校舎
テーマ 地域福祉計画
※地域福祉学会東海北陸ブロックと共催
2. 003年12月6日(土) 秋の研究大会
会場未定(名古屋市内)
テーマ 未定
2. 総会の開催
2003年4月19日(土)
3. 幹事会の開催
拡大幹事会(常任幹事・地方幹事) 年1回
常任幹事会 年5回
4. その他
アジア・太平洋国際シンポジウム・フォスターズクルール・プログラムについては、ソーシャルワーカー協会愛知支部・地域福祉学会東海北陸ブロック・社会事業学校連盟東海北陸ブロック等と共同して、「研究者の集い」を行いたいと考えている。

関西部会／関西社会福祉学会

2003年度事業計画は、通常の研究年次大会、若手研究者の研究報告会に加え、第17回アジア太平洋社会福祉教育・専門職会議に呼応し、国際セミナー(ベトナム社会福祉から学ぶ(仮称))を開催する予定である。また懸案の組織問題及び会員問題は、より活発な地方部会の活動ができるよう、今年度中に規約改正を行う予定である。詳細については以下の通りである。

2003年度事業計画

- (1) 理事会(2回)
- (2) 役員会(4回予定)
- (3) 年次大会(総会・シンポジウム)
- (4) 研究報告会
- (5) ニュースレターの発行(年2回)
- (6) 事務局会議(適宜開催)
- (7) 国際セミナー(2003年7月1日18時～20時)
※ Nguyen Thi Phuong Tan博士、Mai Thi Kim Hoang女士
(関西部会担当理事 上野谷加代子)



中四国部会

中四国部会では、日本社会福祉学会が掲げる基本方針を踏襲しつつ、日韓交流、若手の育成、行政の刺激を基本方針とする。これらの基本方針をもとに本年度学会、総会を以下の通り開催し、発表内容を発表論文集として出版する。

その他、部会運営委員会を年2回（3月、6月）開催すると同時に、会報を年2回発行する。

- ・日本社会福祉学会中四国部会第35回大会の開催
(2003年5月31日、6月1日 川崎医療福祉大学)

1 基調講演:

「現代家族にみる権利侵害 家族の心の健康という視点から」

亀口憲治(東京大学大学院教育学研究科教授)

対談:「現代社会における権利擁護

心理社会的視点から権利擁護を考える」

対談者: 亀口憲治

(東京大学大学院教育学研究科教授)

岡田篤篤(川崎医療福祉大学学長)

コーディネーター:

石川瞭子(川崎医療福祉大学助教授)

2 一般演題発表

3 総会

4 基調講演・シンポジウム

「韓国と日本における利用者の権利擁護」

基調講演:「韓国における利用者の権利擁護」

巖基郁(光州女子大学助教授)

シンポジウム:「地域における利用者の権利擁護」

コーディネーター: 香川幸次郎(岡山県立大学教授)

シンポジスト:

井上雅雄(弁護士)

妻井令三(呆け老人を抱える家族の会岡山県支部代表)

菊池達男(旭川荘いづみ寮施設長)

佐賀雅宏(日常経済生活サポートセンター専門員)

巖基郁(光州女子大学助教授)

九州部会

1. 第44回九州部会大会・総会

開催予定日: 2003年11月1日(土)

メインテーマ: 現在検討中

会場: 福岡県立大学

2. 九州州部会「紀要」発行

2. 運営委員会

7月中旬開催予定

① 部会運営のあり方

② 部会規定の見直し

③ 次年度部会大会開催校について

④ その他

2002年度退会者

阿内 正弘	淑徳大学社会学部	徳田 匡	大阪市長居障害者スポーツセンター
青木 栄一	岐阜信用金庫	内藤 勇次	神戸女子大学
阿部 優美子	日本社会事業大学大学院	長澤 千	やどかりの里
飯田 一道	龍谷大学短期大学部	中西 直和	京都大学教育学部社会教育研究室
飯野 由美子	サンシャイン学園東京福祉商経専門学校	中村 雅子	ミード社会館大阪地域サービス研究所
伊賀 浩樹	神戸老人ホーム 住吉苑	西津 健二郎	長崎短期大学
糸 静子	九州保健福祉大学	芳賀 弘人	豊橋短期大学
伊藤 宏	(財)川崎ボランティアセンター	橋本 由紀子	岡山大学大学院
伊藤 義昭	相模湖町社会福祉協議会	林 千冬	神戸市看護大学 看護組織学講座
稲葉 智枝子	静岡大学	平山 利佳	
色川 卓男	昭和大学医療短期大学	廣渡 修	国土館大学 福祉専門学校
宇佐美 千恵子	愛知学泉大学	藤井 恵	老人保健施設長寿苑
宇治谷 義雄	明星大学	富士谷 あつ子	福井県立大学
梅永 雄二	牛尾外科医院	星 優文子	
大北 いずみ	東京経済大学	星野 信也	帝京大学経済学部
大本 圭	岡山大学	細越 久美子	岩手県立大学
岡野 初枝		政時 義明	北九州市社会福祉協議会
尾上 陽子	東北文化学園大学	松井 恵子	山口県立萩看護学校
河西 敏	北海道教育大学旭川校	松尾 正澄	社会福祉法人長等の里
片岡 繁雄	御影保育専門学校	松下 淑	愛知教育大学
勝田 亨		丸山 マサ美	九州大学医療技術短期大学部
金持 伸子	聖隷クリストファー大学看護学部	水野 絹子	新宿恒心クリニック
華表 宏有	沖縄県総務部男女共同参画室	溝手 芳計	山口県立大学
川上 睦子	兵庫県立介護福祉高等技術専門学校	神籠 広昭	筑波大学大学院
川瀬 まゆみ	日本社会事業学校連盟	三好 昇	
北浦 春夫	近畿地方更生保護委員会事務局	森 法房	山口県立大学社会福祉学部
熊坂 俊二	吉備国際大学大学院	山崎 美紗子	
黒住 洋行	川崎市中部地域療育センター	山本 耿子	賢明女子学院短期大学
小嶋 和津江	同志社大学大学院	山本 眞利子	岡山県立大学短期大学部
小関 なおみ		吉井 建之	家庭裁判所調査官研修所
小林 真鏡	野洲郡野洲町立野洲中学校	吉井 俊雄	道都大学
齋藤 雅美	東京農工大学農学部	吉野 陽子	日本社会事業大学大学院
齋藤 雪彦	専門学校新国際福祉カレッジ		
櫻井 芳郎	東北福祉大学		
佐藤 恒雄	聖徳学園女子短期大学		
佐藤 宝道	静岡県立大学		
塩川 寿平	日本福祉大学 名誉教授		
柴田 嘉彦	九州大谷短期大学		
庄山 スエ子			
鈴木 治子	聖徳大学		
鈴木 政次郎	昭和大学付属烏山病院		
谷口 孝			
遠山 哲夫			
		ご逝去された会員	
		岩坪 奇子	つくば国際大学
		岡田 藤太郎	「福祉世界」研究所
		加藤 泰純	箱根山荘
		小林 武雄	財団法人兵庫県文化協会
		皿海 将美	福山児童相談所
		花岡 晃琳	ルンビニ保育園
		福田 垂穂	東洋英和女学院大学
		山下 一行	養護施設「シオン園」



機関誌の3号体制と新査読委員のご紹介

機関誌「社会福祉学」編集委員長
岩田 正美

機関誌「社会福祉学」は第44巻からいよいよ3号発行の体制となりました。これは、近年の投稿数増大に対応したのですが、むろん単に量的な増大であるばかりでなく、より質の高い論文を掲載する機関誌としての評価を得ていくために、投稿規定の改訂や審査過程の透明化を図ってきました。矢継ぎ早の改革で、締め切り日や執筆要項の変更が気が付かなかった方もいらっしゃるようですが、どうぞ最新の機関誌あるいは学会ニュースに掲載されている規定、要項をよくご覧いただいた上で、投稿していただくよう、再度お願い申し上げます。

3号体制が首尾良く進むかどうかは、投稿者、査読委員、編集委員会のそれぞれの努力にかかっています。特に査読委員は、43巻2号の編集後記に庄司委員が書かれたように、いわば無償労働を行っているわけですが、3号体制で、この仕事はますます増えていくこととなります。むろん、このような仕事は学会という学問共同体のメンバーとしての義務でもありますが、これに関わる方たちが多くの時間と労力を割いていることはいまでもありません。それにも関わらず、査読のコメント等も懇

切丁寧なものが少なくなく、良い研究を世に出していこうとする熱意が伝わってくることもしばしばです。

他方で、査読制度に十分慣れていないわが国の社会科学分野では、査読をする側にも、される側にもある種の戸惑いがまだ見受けられるように思います。また、どのように厳正にやっても、査読という仕組みそのものが、たとえば独創的なアイデア等を適切に判断する上ではやや無理があるというような根本的な問題を孕んでいます。そのようなことが、時として両者の不満となって編集委員会に寄せられることも多くなってきました。クレームにどう対処していくかは編集委員会にとって新しい課題となりつつあります。

編集委員会自体が3号体制への移行によって大幅な仕事量の増加になってはいますが、同時にこのようなクレームへの対処にも追われる傾向がでてきています。前回理事会では、クレームの窓口は編集委員会におくとされましたが、この体制についてもあらためて考えていく必要があるかも知れません。

ともあれ、投稿者の力作に丁寧な査読が十分にこれを評価する、というような方向に向かっていることを信じつつ、2003年1月からの査読委員を、次の方々をお願いしました。今回は大幅な人員増で109名の方です。なお、この方々以外にも、すでに何人かの学会員の方に臨時の査読をお願いしています。ご苦勞をおかけすることになりますが、3年間の任期中、どうぞよろしく願い申し上げます。



査読委員

秋元 美世	柏女 靈峰	副田 あけみ	福 知 栄子
秋山 薊二	加瀬 裕子	高田 真治	福山 和女
浅野 仁	河東田 博	高橋 信行	藤村 正之
安立 清史	門田 光司	高橋 紘士	古瀬 徹
阿部 實	川廷 宗之	高山 直樹	牧里 每治
網野 武博	菊池 義昭	竹中 哲夫	牧野 忠康
安藤 忠	鬼崎 信好	田澤 あけみ	牧野田 恵美子
井岡 勉	北川 清一	立岡 浩	松井 二郎
池田 雅子	北島 英治	津崎 哲雄	松井 亮輔
石川 到覚	木下 誠一	土屋 業	松岡 克尚
石川 久展	北野 康仁	筒井 のり子	松崎 泰子
石原 邦雄	久保 美紀	豊村 和真	松原 康雄
市川 一宏	黒木 保博	中川 健太郎	松本 伊智朗
伊藤 淑子	黒田 研二	中嶋 和夫	三毛 美予子
上野谷 加代子	桑原 洋子	中田 照子	宮崎 昭夫
宇都 栄子	小林 良二	中野 いく子	森 望
大國 美智子	古谷野 亘	西尾 祐吾	森田 明美
大澤 隆	小山 隆	野口 定久	山縣 文治
大瀧 敦子	西郷 泰之	野澤 正子	山下 英三郎
大友 信勝	才村 純	萩原 清子	山田 明
岡 知史	坂口 正之	萩原 康生	湯澤 直美
岡田 進一	坂田 周一	狭間 香代子	和氣 純子
岡田 徹	佐藤 豊道	橋本 正明	和氣 康太
岡部 卓	佐藤 嘉夫	林 千代	渡辺 裕美
奥山 正司	三本松 政之	原田 正樹	渡部(グリーン) 律子
小澤 温	白澤 政和	原田 春見	
	杉村 宏	久田 則夫	
	鈴木 勉	平岡 公一	
	硯川 眞旬	平塚 良子	

所属地域ブロックの確認を

次期の2004年役員改選から、選挙方法が一部変更されます。従来は、地方担当理事も選挙理事や推薦理事から選んでいましたが、次期の2004年の改選では、7つの地域ブロック（北海道、東北、関東、中部、関西、中四国、九州）を単位に、そこでの会員が被選挙権および選挙権をもち、地方担当理事が選出されることとなります。これは、地方部会の活性化することを目的にして、改正されたものです。

この際に、会員の所属先住所が地域ブロックになることを原則にしています。但し、所属先住所と自宅住所で地域ブロックが異なる場合には、学会事務局に文書で申し込みがあれば、自宅住所で地域ブロックを登録することができることになっています。次期の選挙については、2004年3月末日までに変更の申し込みを受け付けます。個々の会員は所属している地域ブロックを確認し、変更がある場合は至急申し出てください。

なお、個々の都道府県の地域ブロックの割り当てについては、理事会等でも議論してきましたが、個々の会員が一定の条件のもとで変更が可能なおこととなり、都道府県割り当ての変更は行わないこととなりました。
(白澤政和)

韓国社会福祉学会春季学術大会に出席して

日本社会福祉学会庶務担当理事

大友信勝 (東洋大学)

1. 「研究交流の覚書」調印後、最初の代表派遣 日本社会福祉学会第50回大会(日本社会事業大学、2002年10月27日)において韓国社会福祉学会との間で3年越しの双方の代表者派遣の実績を踏まえ、「社会福祉に関する研究交流の推進に関する覚書」を実現させることで合意し、文書を交わした。

2003年度韓国社会福祉学会春季学術大会は調印後、第1回目の代表派遣ということになる。本報告は山崎教授の了解を得て、大友がまとめを担当した。

2. 韓国社会福祉学会の概要 韓国社会福祉学会春季学術大会は2003年5月2～3日、Seongkyunkwan大学(ソウル市)において開催された。日本社会福祉学会からは代表派遣として山崎美貴子研究担当理事(神奈川県立保健福祉大学)と私の2名が参加した。

韓国社会福祉学会の大会テーマは「ノムヒョン政府にのぞむ社会福祉政策」であった。新しい政権が誕生したときに社会福祉学会として今までの社会福祉政策の問題点と課題を総括し、新政権に社会福祉政策のあり方を政策提言することを重視してきた歩みが今回も踏襲されている。

日韓研究交流シンポジウムは第2日目(5月3日)午前9時30分～12時00分まで行われた。第1テーマは日韓両国の社会福祉政策の歩みと特徴、今後のあり方に関わるもので、「福祉主体の役割と課題」が検討された。私が発表したテーマは「戦後日本の社会福祉政策における中央政府と地方政府の役割変化」である。韓国側はBak Jong Man教授(全北大学校)が発表した。発表時間は日韓双方、一人30分、質疑5分(通訳の時間を含む)であった。通訳はイソヨンさん(東洋大学博士後期課程)が行い、コーディネーターはKyungbae Chung博士(韓国福祉経済研究院長)が担当した。

第2テーマは「公的部門と民間部門の協力体系」が共通課題で、山崎美貴子教授は「公的セクターと民間セクターとのパートナーシップ」と題して発表を行った。韓国側の発表はKim Young Jong博士(Kyoung Sung大学)が行った。通訳はKim Bum Soo教授(平澤大学校)が担当し、コーディネーターはパクジョンラン博士(仁済大学校)が行った。

日韓共同シンポジウムの参加者は約100名で、発表に対する質問や意見も活発であった。日韓両国の中央政府と地方政府の役割変化、公的部門と民間部門のあり方について共通性と独自性があることが相当程度明らかになった点は評価されてよい。両国の独自性については歴史的事情、社会的背景に違いがあり、この点については実証的研究を重ねてつき合わせていく研究課題が残された。

日韓共同シンポジウムに参加して、両国共に戦後改革に次ぐ社会福祉基礎構造改革期を迎えている点では共通性があり、韓国社会福祉学会はその点を正面から取り上げた点に意義があるものと思われた。

3. 研究交流で学んだこと 2000年に施行された基礎生活保障法(わが国の生活保護制度に相当する制度)は住居給付を生計給付から分離し、労働能力がある者への支給方法をワークテストを課すことによって自活給付を支給できるようにしている点等において都市開発に伴う低

所得者、さらにホームレス対策と連動するようになっていく。

日本の生活保護制度改革が基礎構造改革においても先送りされている時期に、改革モデルをヨーロッパに求め、「日本に参考になるものが殆どなかった」という指摘に考えさせられた。基礎生活保障法の制定と実施に同法制定推進会議にNPOや多くの研究者が関わっており、社会福祉学が貧困問題に立ち向かっている姿勢をみて学ぶものがあった。

4. 交流会について 5月1日夕方、韓国社会福祉学会はSung-Jae Choi会長が宿泊先のホテル(Koreana Hotel)で山崎教授と私たちを招待する歓迎の夕食会をもって下さった。次期会長のYoungboon Lee博士、事務局担当のSang-Hoon Ahn博士、通訳のパク博士、他に研究担当理事が多忙な中を参加してくれた。

5月1日の夕食歓迎会で日韓共同企画の進め方を協議し、5月2日の昼食会をはさんで全体の発表者、コーディネーターが揃って最終打ち合わせを行った。

5月2日は発表プログラム終了後に開催校(Seongkyunkwan大学)において学会主催の懇親会が行われ、ここにも山崎教授、私たちがご招待を受けた。韓国社会福祉学会は会員数約1,300人、正会員は学位(博士)を持っていることだと聞かされて驚いた。懇親会の参加者は約400名であった。参加者が若く、雰囲気も明るく、地域・大学・研究グループごとのテーブルが盛り上がった。

懇親会のスピーチはChoi会長を始め、どなたも短い。日本側も韓国の方々に見習ったことはいまでもない。食事は前席中央の役員及びゲストメンバーがいるテーブルから順次バイキング方式の料理を取り、整然としている。参加者全員がテーブルを囲み、椅子席を用意されている。「どうして立食でないのか」と質問したところ「遠くからみえた会員に失礼があってははいけません」という回答が返ってきた。

開催校は600年の歴史がある名門校で社会福祉学会が開かれ、会場は盛り上がり、食事をすませ、交流が済みとテーブルごとに潮が引くようになくなる。これから二次会、三次会と盛り上がるという説明を聞き、エネルギーやパワーに圧倒されるものがあった。

5. 日韓共同研究シンポジウムについて 学会終了後、韓国社会福祉学会から次期会長、現在の国際研究担当理事の他、次期国際研究担当理事(Kim Bum Soo教授)、新役員と共に、日本側から山崎教授と私が出席して今後の進め方について協議の場をもった。主な確認事項は①去年10月の日本社会福祉学会における日韓交流シンポジウムは今回の韓国社会福祉学会のテーマを発展させる方向で検討してほしい、②日本社会福祉学会(10月)終了時に日韓の今後の共同研究の進め方、研究交流の学術報告書のとりまとめと発刊について、協議の場をつくってほしいということであった。

国際研究担当理事のKim教授は同志社大学で井岡勉教授(研究担当理事)の研究指導を受け、黒木保博教授(国際渉外担当理事)とも親交がある。次の共同研究や学術報告書の発行を検討する時期に担当者に恵まれたこともあり、今後の研究交流の発展に期待できることは喜ばしい。

研究交流についての覚書をかかわった最初の学会に山崎美貴子教授と共にご招待を受けたこと、韓国社会福祉学会からご親切な歓迎を受けたことを心から感謝し、大会報告にかえたい。



おたずね

下記の会員は、学会ニュースNo25、No30およびホームページ等で「連絡がとれない方」とご報告していますが、次回の7月の理事会までになおご連絡がとれない場合「退会審議」の対象とみなすこととなります。

李 鳳和	Seoul 特別市電算情報管理所
石井 京子	藍野学院短期大学
石井 大輔	吉備高原医療リハビリテーションセンター
伊藤 益	淑徳大学社会学部
井上 敏機	軽費老人ホーム悠々の苑
井上 博道	仙台家庭裁判所
今井 明	岩手県生活福祉部
岩谷 亜希子	同志社大学大学院
小嶋 英夫	淑徳大学 社会学部
小川 淳	横浜市北部地域療育センター
奥身 香子	京都府立大学女子短期大学部
尾身 あおい	横浜市総合リハビリテーションセンター
鹿島 直子	東北福祉大学大学院
叶堂 隆三	早稲田大学文学部
鎌田 佳恵	同志社大学大学院
川本 薫	関東地方更正保護委員会
姜 惠楨	同志社大学大学院
岸本 美香子	東北福祉大学
木島 真央	東北福祉大学大学院
北川 博一	厚生省社会・援護局援護企画課
鬼頭 良行	横浜国際福祉専門学校
倉本 三義	中央育英学園
栗原 淳	佐賀大学教育学部
桑田 和幸	
小池 恭子	丘の上病院
小島 由美子	京都教育大学大学院
小辻 奈美	美深育成園
込山 稔	東海大学健康科学部社会福祉学科
近藤 卓	明治学院大学大学院
郷 有美	日本医療福祉専門学校
齋藤 秀俊	東京都練馬高等保育学院
坂下 富雄	愛知県立看護大学
坂本 真理子	九州看護福祉大学
柴崎 建	救世軍帯広小隊
瀬戸口 久美子	淑徳大学大学院
田内 緑	福島県老人クラブ連合会
高橋 博延	龍谷大学大学院
賞雅 さや子	
武井 泉	障害者自立生活問題研究所
武田 康晴	越川 記念病院
醍醐 敦子	大阪市立大学大学院
崔 英信	佛教大学大学院
曹 秋 龍	

友田 尋子	立命館大学大学院
中野 豊子	大阪府立公衆衛生研究所
西口 宏美	山梨学院短期大学
西元 幸枝	岡山県立大学
西山 美穂	上智大学大学院
長谷川 栄子	佐野国際情報短期大学
平尾 桂	関西学院大学大学院
古川 和子	東京福祉専門学校
別府 園子	立正大学大学院
細湖 富夫	長野大学
前田 乾郎	熊取療育園
松尾 和枝	産業医科大学短期大学第3看護学
松本 祥子	東京女子大学大学院
松本 れい子	
三上 たみ	東京学芸大学
三ッ 泉 睦美	駒澤大学大学院
弥久保 宏	東北福祉大学
安川 友加里	藤井クリニック
柳井 圭子	九州看護福祉大学
山内 陽子	駒沢大学大学院
山岡 喜美子	新見女子短期大学
山川 崇子	虎の門病院
山本 保	参議院議員
吉田 久美子	滋賀県立大学看護短期大学部
渡辺 敏幸	都立梅ヶ丘病院

編集後記

日本社会福祉学会第51回全国大会は「21世紀社会福祉の価値と倫理」をテーマに、10月11日～13日、四天王寺国際仏教大学において開きます。次年度が学会創設50周年にあたることから「学会創設50周年事業」を企画しています。

機関誌が第44号から年間3号発刊の体制になり、新たな査読委員を紹介してあります。編集委員会の業務が拡大していますが、機関誌への期待と評価が高まっており、財政的にも保障していく体制を整備します。

第50回退会（2002年10月）において、韓国社会福祉学会と「社会福祉に関する研究交流の推進に関する賞書」を交わし、本年5月、ソウル市において調印後、最初の代表派遣を行ったことから「韓国社会福祉学会春季学術大会」を報告しました。

次期の役員改選から選挙方法の一部が変更されます。所属地域ブロックのご確認を行い、変更のある会員は本年度までにお申し出下さい。4400人をこえる学会規模になりましたので地域ブロック活動を充実させ、全国大会との関連を追求していく必要が生じています。（大友信勝記）

事務局連絡

- ▼ 現在年会費の請求をしていますが、正式領収書が必要な場合は、会費を納入されたときの半券（領収書となっているもの）を事務局にお送りください。その際返信封筒をご用意ください。
- ▼ 会費納入のための請求書が必要な場合は、請求書を作成の上、返信用封筒をご用意ください。
- ▼ 大会での発表は、口頭発表、ポスター発表、自主企画シンポジウムのすべてで、本年3月末で会員でなくてはなりません（毎年同じですので、ご注意ください）。また、昨年度の会費を納入済みの会員に限ります。

発行人	大橋 謙策	学会ニュース 33号
編集人	白澤 政和	
発行日	2003年6月10日	
発行	日本社会福祉学会	
	〒160-0008 東京都新宿区三栄町8	
	森山ビル西館501	
	TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204	
	Email jsssw@jt2.so-net.ne.jp	
	URL http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/	
	(5月末現在会員数 4,451人)	